

最近の主なニュースをご紹介します。

サハリンⅡプロジェクト

3月からLNGの出荷を開始

(エネルギー事業グループ 天然ガス事業第二本部)

三菱商事が10%出資するサハリンエナジー社は、3月29日、ロシア連邦サハリン州プリゴロドノエ港のサハリンⅡLNG生産・出荷設備からLNGの出荷を開始しました。サハリンⅡは、最大で年間960万トンのLNG生産が見込まれており、その約6割が日本へ供給される予定です。

サハリンⅡは、ロシア初のLNGプロジェクトであると同時に、日本にとっても、地理的に近いロシア極東に位置することから、エネルギー安全保障上、戦略的な意義が大きい事業です。このプロジェクトは三菱商事にとって約20年ぶりの新規大型LNGプロジェクトです。



今年3月にLNGの出荷を開始

都市型ショッピングセンター

「モゾ ワンダーシティ」が開業

(新産業金融事業グループ 開発建設プロジェクト本部)

三菱商事とイオンモールが共同で開発・建設を進めてきたショッピングセンター「モゾ ワンダーシティ」(名古屋市西区)が4月21日に開業しました。ジャスコを核店舗とし、テナント数約230、駐車場台数約5,000台を擁する名古屋市最大級のモール型ショッピングセンターです。年間の来店者数は1,700万人を目標としています。

この場所では1994年から三菱商事子会社のダイヤモンドシティ(2007年にイオンモールに吸収合併)が「ワンダーシティ」として営業してきましたが、周辺環境の変化から新たな商業施設として生まれ変わるべく再開発計画に着手。開発型証券化[※]案件としては、当社で過去最大の投資案件です。

※開発中の不動産物件を証券化する金融手法



モゾ ワンダーシティ



「モゾ」は、生命体が動き出す音をイメージ。苗木のシンボルマークと合わせ、地域に根付き、共に育っていく存在になりたいとの思いを込め命名されました

未開発ニッケル鉱山では世界有数の規模 ウェダベイニッケルプロジェクトに参画

(金属グループ 鉄鋼原料本部)

三菱商事は、インドネシア・ハルマヘラ島におけるウェダベイニッケルプロジェクトの権益のおよそ3割を取得しました。ウェダベイ鉱床は未開発ニッケル鉱山では世界有数の規模と推測されており、最新の調査結果では、ニッケルの資源量は推定で約510万トン、プロジェクトが目標とする生産能力は年間約6万5,000トンにも上ります。

ステンレスやバッテリーの原料となるニッケルは、中国をはじめとする新興国の経済成長に伴って、中長期的に需要の増加が見込まれます。三菱商事は、今後、フランスの金属原料生産企業であるエラメット社と協力しながら、投資決定をする上で必要なプロジェクトの事業調査を行っていく予定です。



総合原子燃料事業会社

三菱原子燃料を設立

(機械グループ 重電機本部)

三菱商事は、三菱重工業、三菱マテリアル、フランスの原子力産業複合企業アレバの3社と合併で、原子燃料の設計・開発から製造・販売までを一貫して行う総合原子燃料事業会社、三菱原子燃料を設立しました。

三菱原子燃料は、国内市場では、代表的な炉型である加圧水型原子炉および沸騰水型原子炉用のウラン燃料と混合酸化物燃料^{※1}、研究開発中の高温ガス炉用のウラン燃料を供給するほか、再転換^{※2}などの関連サービスを提供します。海外市場では、アレバとは独立し、三菱の設計による加圧水型原子炉燃料の供給を図ります。

地球温暖化防止の取り組みなどを背景に、世界的に原子力発電の重要性が高まる中、高品質な原子燃料の安定供給に寄与することを目指します。

※1 ウランとプルトニウムを酸化物の形で混合した燃料 ※2 ウラン燃料製造工程の一つ



三菱原子燃料社屋



加圧水型原子炉燃料(燃料集合体) 長さ約4メートル

「丸の内パークビルディング」が竣工。 5月から丸の内2ビル体制

2年にわたって建設工事が進められていた「丸の内パークビルディング」が4月に竣工し、5月7日に三菱商事本店の一部が移転しました。これまで本店は、丸の内と品川に分かれていましたが、5月からは丸の内2ビル体制になります。三菱商事は、丸の内パークビルディングの22階から最上階の34階に入居しています。

